自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念があり、事業所の全体会議にて、職員で唱和する事と、掲示をして理念の共有に努めている。	会社の理念を基本に、若葉ユニットは利用者と同じ目線で寄り添った支援を行う、桜ユニットは家族の様に接した支援行う等、各ユニットの理念を決めミーテイングで話合い意識付けを計っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し事業所が地域の一員となれるように努めている。また、回覧板等で地域の情報もいただいている。また、近隣の保育園とは毎月交流の機会があり、運動会を見に行ったりもしている。	自治会のバスツアー、清掃等の行事にセンター長が参加して地域との交流を大事にしています。また、月1回園児30人が来所して、利用者と一緒に歌や遊戯を行った写真には利用者の笑顔があふれています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	センター主催の介護セミナーなどを開催、夏祭りなどのイベントには地域の方を招いて交流を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、活動報告を行ない家族や民生委員等の意見をいただいている。また、身体拘束に関する勉強会を実施し、サービス向上に活かしている。	家族の方、自治会長、民生委員、社協の方々の参加で2か月に1回運営推進会議を行っています。会議では、事故報告、活動報告のほか、歩行困難な人の擬似体験や様々な意見を頂きサービスの向上に生かされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故があれば、必ず市町村へ報告している。また、窓口としての担当者が明確になっており、いつでも問い合わせができる関係である。	日頃から市町村との連絡を密にするように心がけ、事故が起きた時等は必ず市町村に報告しています。自治会に加入し、協力関係を築く努力をしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行なっていない。管理者や計画作成担当者は研修に行って理解を深め、それを現場職員にも浸透させている。積極的に身体拘束廃止研修に参加している。	身体拘束をしない介護を実践しています、管理者等が外部の身体拘束ゼロの研修に参加し理解を深めて、同じ資料を使い内部研修を行い職員全員が共有認識を持つようにしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員同士が牽制し合い、虐待がないように取り組んでいる。身体拘束と併せて学ぶ機会を持っていきたい。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や計画作成担当者は千葉県高齢者権利擁護・身体拘束廃止研修を受講し、理解を深めている。また、会社として成年後見人の実習生を受け入れている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、契約書、重要事項説明書の内容をすべて説明している。必ず不安や疑問点を尋ね、納得した上で入居していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会カードに意見、要望を書く欄を設けているが、記載は少ない。運営推進会議であがった提案は可能な限り、応えている。センター独自でアンケート調査も行った。	玄関に意見、要望を記入してもらう箱を置くなどして工夫をしています。来所した家族と共に地域マップを見ながら今後の外出支援の参考にしています。職員は利用者の何気ない言葉を受け止めて今後の運営に役立てる努力をしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホームの全体会議では、活発な意見はあまりあがらないが、定期的に開催するようにした、個人面談で職員の意見を吸い上げている。	管理者は、以前は介護職員として、現在も時間が許す限り利用者の支援を行っているので、意見、要望を言いやすい人間関係は出来ています。月１回の個人面談では意見、要望をくみ取り、出来ることはすぐ解決しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面接を通して今後の目標設定をしたり、個々の努力や実績、資格取得に応じて給与変更を可能な限り実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	センター内研修の他、支社や本社主催の研修を行っている。積極的に参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	支社で毎月開催するグループホームの支社会議に参加し、他センターの職員と交流する機会を設けている。他事業所との交流が少ない。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に必ずケアマネが面会し、アセスメントを行なっている。その情報を入居前に職員に周知徹底している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の窓口としてケアマネを立て、誰に相談すれば良いかを明確にしている。また、契約の際には、管理者が立会い、家族の意向に添うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に必ずケアマネが面会し、アセスメントを行なっている。他サービスの利用の紹介も視野に入れてはいるが、その例はほんとんどない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気を目指し、個人の性格を熟知し、役割を持つことで本人の居場所ができるように支援している。また、一緒に食事をとり、感想等を共感している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族も参加できるような行事を企画し、家族も楽しんでいただける機会づくりを心がけている。クリスマス会や夏祭りには多数のご家族が参加されている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事業所として積極的に馴染みの人に会ったり、出かけたりということはしていなが、面会や外出に大きな制限は設けておらず、自由に面会に来ていただいている。家族の要望で、贈り物をいただいた親戚に電話していただいている方もいる。	面会や外出に制限は設けていませんが、馴染みのある場所に出かける事が少なくなってきています。以前は、併設しているデイサービスに来た利用者が訪ねてきたこともありました。	利用者のかけがいのない人や場所のつながりを継続できるように、利用者一人一人が今までの生活の延長線上であるように、更なる支援の向上に期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性等を把握し、座席の配置等配慮している。また、職員が間に入り、話しのきっかけづくりをしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事例はほぼないが、契約が終了しても相談があればいつでも応じられる体制にはなっている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に十分なアセスメントを行ない、本人本位のケアプランを作成している。また、定期的なカンファレンスモニタリングを行ない、ケアの見直しを行なっている。	入居当初は、利用者の生活歴、趣味、環境等多くの情報を集め、1か月の暫定プランを作成し、入居後は、モニタリングを行い、本人、家族の意向に沿ったケアープランを作成し、随時見直しをしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、家族から細かく生活歴や趣味、嗜好、生活環境等を聞きとり、職員間で情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の様子や過ごし方は必ず個人記録に残している。特変事項は必ず申し送り、職員間で共有している。また、ミーティングで変化があった方の対応方法等すりあせている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の要望を元に、計画書を作成するが、サービス担当者会議に家族が出席するまでには至ったていない。	面会時に家族からの要望、意見を聞きためたものや、利用者からの思いや意見を吸い上げて、職員全員で意見を出し合い、より良い介護方法を検討し、利用者、家族、職員で介護計画を立て作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日によって状態が大幅に違う利用者もいるので、個人記録にその日の様子を残し、職員間で情報共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	参加できる方はデイサービスのレクに参加したりして活動の機会を作っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社協のボランティアコーディネーターの紹介により、定期的にボランティアとの関わりがある。月に1回地域のボランティアの方によるフラワーアレンジメントをユニット全員で楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療を利用されている方がほとんどだが、家族の要望によって通院している方もいる。	受診は家族の要望を最優先で行っています。訪問診療は施設と医療機関との関係を結んでいるので、適切な医療が受けられるような体制が整っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医者のすすめで、浮腫の改善のために足浴をしている方や拘縮の改善のために週に1度マッサージを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーを作成し、情報提供に努めている。また、家族と密に連絡を取ったり、お見舞いに行き利用者状況把握をこまめに行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルを向かえる可能性がある利用者がいるが、現段階から家族と話し合い事業所でできる範囲を説明した。会社としてもターミナルケアの研修を実施している。	ターミナルに向けて早い段階で家族と話し合い、希望があれば出来ることを家族に納得して頂き実施しています。職員全員が共有認識を持つようにターミナルケア研修を受講しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルをファイル化し誰でも見えるようにしている。今後、消防署等で応急救護の研修に参加させたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自治会長に、災害時の近隣の協力を依頼した。避難訓練は年2回実施している。今年度は消防署立会いで夜間想定の避難訓練を実施した。	避難訓練を職員、利用者と共に行い消防署から、利用者をまづベランダに出すようアドバイスを受けたり、シューターの実施訓練も行いました。災害時の協力体制として、近くに住む職員の連絡先を把握し職員全員で共有しています。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	サービス業である精神を忘れずに、尊厳を重んじた言葉かけや対応を目指している。接遇、マナーの改善は会社としても指導がある。	利用者は人生の先輩であり尊敬しうる方々であることを念頭に置き、人格を尊重した支援を心掛けています、外部の講師によるマナーの研修も行っています	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話の中で、本人がやりたいと言ったことは形にできるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが、本人がやりたいことは自由に行なっていただいている。また、本人や家族の要望はケアプランに盛り込むようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容が定期的に来所し、散髪をしている。また、衣類は本人が選んだ物を着ていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には簡単な調理（野菜を切る等）や食器拭き等に参加していただき職員と一緒に調理している。また、外食や豪華な弁当を実施している。	食事、おやつは職員による手造りで家庭の味を出すように心がけています。月に一回はお楽しみ会を行い晩酌を含めて手をかけた食事を利用者と作っています。今まで使用していた食器や箸を持参してもらい家庭でのつながりを大事にしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本社の管理栄養士が献立を作成し、栄養バランスのとれたものを提供している。食事摂取量、水分摂取量は必ず記録に残している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必ず、毎食後に口腔ケアを実施している。口腔ケアが困難な利用者には家族と相談のうえで、訪問歯科を利用されている利用者もいる。ブラッシングを嫌う利用者にはウエットティッシュを使用し、口腔内を清潔に保っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗で本人の負担や羞恥心がないように、排泄の記録を取り、一人一人の排泄パターンを把握し、声かけや誘導を行ない失敗を減らすように努めている。	排泄チェックシートを利用し、トイレへの誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を心掛け、オムツを付けないで過ごし、生きる意欲、身体機能の向上につながる支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に排泄管理をしており、野菜多めの食事、十分な水分補給、果物や乳製品の提供、レクでの体操や散歩等の運動の機会を設けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お風呂は毎日沸かしているので、希望があった方は入浴できるようになっており、契約時にも説明をしている。入浴が楽しめるようにお好きな入浴剤を選んで使用して頂くなどの工夫もしている。	入浴は個浴でゆっくり入って頂けるシステムが出来ています。立位が出来ない方は併設しているデイサービスの機械浴で対応しています。	入浴は不安や羞恥心、恐怖心をもたらす場合があることを配慮し、特に女性の入浴介護は、心の声をくみ取り同性介護を行うなど、利用者の心情を察した介護に期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝の習慣がある方など、自宅で過ごしていた際の生活習慣は入居しても継続していただいている。また、必ず夜間の睡眠の様子なども申し送り寝つきが悪かった方などには、昼夜逆転しないように休んだりしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用を全職員が完全に把握しきれてはいなが、服薬による症状の変化などを往診医に伝え、今後の対応に活かしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自宅で過ごしていた際の、趣味や生活歴を把握し、日常の余暇活動に活かすように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事として、初詣・花見・遠足等の外出の企画を立て実行している。また、天気良い日にはドライブに行ったり、散歩に出かけたりしている。	家族の意見を反映した外出支援の年間計画を立て、季節に応じた外出の支援を行っています。外食をかねて外出をし、五感を刺激し生きる喜びを感じてもらうようにドライブや散歩をしています。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は職員が行なっているが、買い物に行く機会などをつくり、ご自分でお金を使用できる機会をつくりたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠い親戚から果物が届くご利用者様がいるが、家族の要望もあり、本人に電話でお礼を伝えていただいている。また、手紙等が届く方も、必ずご本人に渡したり、職員が一緒に読んでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い空間になるように、環境管理に注意している。生活感や季節感が出るような装飾にもう少し力を入れていきたい。また、リビングからは外の景色も見えるような机の配置にしている。	クリスマスの飾りをして季節感を出す工夫をしています。居心地の良い共有空間を作る工夫がされています。利用者の安全を優先した家具の配置がされています。	利用者と職員が一体となって、季節感のある装飾や家庭的な温かみのある生活感が感じ取れるような空間作りに期待しています。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各場所にソファーや椅子等を設置し、独りになれたり、リラックスして過ごせる空間を作れるよう努力している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に厳しい制限は掛けておらず、入居時に本人の馴染みのある家財道具を持ち込んでいただくように説明している。	居室への持ち込みは制限なく利用者が居心地良く過ごされるように配慮しています。馴染みのあるものを周りに置き、落ち着いた環境になるように家族の協力を得て居室作りを行っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	薬品倉庫等には鍵をかけているが、バリアフリーになっており、居住スペースは自由に移動していただいている。		